

## 親しくかかわってくださるお方

### ヨハネ福音書9:26-41

【新改訳 2017】

- 9:26 彼らは言った。「あの人はおまえに何をしたのか。どのようにしておまえの目を開けたのか。」
- 9:27 彼は答えた。「すでに話しましたが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜもう一度聞くとうとするのですか。あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか。」
- 9:28 彼らは彼をののしって言った。「おまえはあの者の弟子だが、私たちはモーセの弟子だ。」
- 9:29 神がモーセに語られたということを私たちは知っている。しかし、あの者については、どこから来たのか知らない。」
- 9:30 その人は彼らに答えた。「これは驚きです。あの方がどこから来られたのか、あなたがたが知らないとは。あの方は私の目を開けてくださったのです。」
- 9:31 私たちは知っています。神は、罪人たちの言うことはお聞きになりませんが、神を敬い、神のみこころを行う者がいれば、その人の言うことはお聞きくださいます。」
- 9:32 盲目で生まれた者の目を開けた人がいるなどと、昔から聞いたことはありません。」
- 9:33 あの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできなかったはずですよ。」
- 9:34 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちに教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。
- 9:35 イエスは、ユダヤ人たちが彼を外に追い出したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」
- 9:36 その人は答えた。「主よ、私が信じるができるように教えてください。その人はどなたですか。」
- 9:37 イエスは彼に言われた。「あなたはその人を見ています。あなたと話しているのが、その人です。」
- 9:38 彼は「主よ、信じます」と言って、イエスを礼拝した。
- 9:39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」
- 9:40 パリサイ人の中でイエスとともにいた者たちが、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」
- 9:41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、今、『私たちは見える』と言っているのですから、あなたがたの罪は残ります。」

### 【祈りながら考えよう】

- (1) 盲人だった人は正直に事実を語っただけなのに、なぜユダヤ教から破門されたのですか。
- (2) イエスがユダヤ教から追放された人を見つけ出したのはなぜですか。何のためですか。
- (3) 39節の「わたしはさばきのためにこの世に来ました」はヨハネ3章17節の「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく」と矛盾しませんか。

### 【解 説】

#### (1) パリサイ人による追求

人々は癒やされた人をパリサイ人たち(ユダヤ人)のところに連れて行った。彼らはそれがイエスの行為であることに気がついた。そして癒しが安息日になされたと聞いて、「安息日を守らない者が神から出ているはずがない」と決めつけたが、一部に「そのような者がこれほどの奇蹟を行えるだろうか」と言う者もいて、意見は分かれた。

自分を癒やしてくれた方について初めは何も分からなかった彼が、人々とのやり取りをするうちに、次第に理解を深めていった。そしてパリサイ人から意見を求められて、「あの方は預言者です」と確信を述べるほどになったのである。

「そんなはずはない」とあくまでも信じないパリサイ人は、癒しの信憑性を否定するため、両親を呼び出した。しかし、望んでいた証拠は得られなかった。ユダヤ教の会堂から追放されることを恐れた両親は「事情は息子に聞いてください」と言い、詳しくは語りたがらなかったが、彼が確かに自分たちの息子で、生まれながら目が見えなかった



ことは認めたからである。

再び本人が呼ばれた。指導者たちは、「律法を守らないイエスが罪人であるのは明らかだ。何かごまかしがあるに違いない。だから、本当のことを言え」と迫った。

かつて目が全く見えなかった自分が、イエスのおかげで今は見える。この事実のほか何もない。だから「本当のことを言え」と言われても、ほかに言いようがない。そこで、執拗に追求する彼らに、つい皮肉まじりに

「もう話したでしょう。どうしてまた聞くのですか。あなたがたも弟子になりたいのですか」と言ってしまった。さすがに、この言葉は彼らを怒らせた。「おまえはあの者の弟子ではないか。われわれはモーセの弟子だ。モーセには神が語りかけたが、あの男の素性はわかっていない」

しかし、彼も負けてはいなかった。「生まれつき目の見えない人の目を開けるなんて前代未聞のこと。神から出ているのでなければ、できないはず」と食い下がった。事実立つ者は強い。これにパリサイ人たちは言い返すことができず、もはや彼を異端者として追い出す以外方法はなかった。こうして彼らは、強引に厄介払いをしたのである。

#### (2) あなたは人の子を信じますか

彼がユダヤ人の交わりから追放されたと聞いて、イエスは自分から彼を捜し出し、親しく語りかけられた。主は、ご自分の民が、主の名のために苦しみ会うや、すぐにその人々を尋ね、慰めのことばを掛け、励まされる。

そして、彼にこう言われた。「あなたは人の子を信じますか」

主はご自分のことを「人の子」と言われた。なぜメシアという言葉を使わずに、「人の子」という呼び名を使われたのかと言うと、当時の人々のメシア観は、政治的メシア観であったからである。ローマから独立する指導者のメシア。

そこで主は、ダニエルの預言に出て来る「人の子」(ダニエル7:13)という称号を使われた。「年を経た方」から「主権と栄誉と国」とが与えられる終末におけるメシア的人物として描かれている。この方は「天の雲に乗って来られる」(ダニエル7:13、詩104:3、イザヤ19:1)。人間性が強調されているとはいえ、本来は神的存在であり、「裁き主としての神」を意味するものであった。

ここで主は、「あなたはわたしを信じますか」と言わず、三人称を使って「人の子を信じますか」と言われたため、彼はこう答えている。「主よ、私が信じるができるように教えてください。その人はどなたですか」

主は、その人にこう言われた。「あなたはその人を見ています。あなたと話しているのが、その人です」

彼はこう答えた。「主よ、信じます」主のことばに男は単純に、ためらいなく、主イエスに信仰を持ち、礼拝した。

#### (3) 親しくかかわってくださるお方

彼の信仰告白に至る経過を見ると、最初は、「イエスという方が、泥を作って、私の目に塗り、『シロアムの池に行って洗いなさい』と私に言われました」と言っているが、その後、「あの方は預言者です」と言うようになる。

そしてその後、「神から出ておられる」方(33節)だと言い、そしてついに、「主よ、信じます」と言って礼拝するまでになっている。

彼が最後に、このようにはっきり主を告白するようになったのは、ユダヤ教から破門されたことを契機として、主が親しく彼に語りかけてくださったことによる。

私たちの場合も、しばしばそうではないかと思う。この世の中にどっぷりつかっている限り、主への信仰がはっきりしない。家庭における人間的な暖かさ、職場で自分の能力が思う存分発揮できているような場合、また学校でも成績が良く、みんなから期待されているような場合、その中につかっいて、出て来ようという思いなど抱かない。

そうした人間的な暖かさ、生きていく上での快適さが、本物を求めるのに邪魔をすることがあるものである。だから、何かのはずみでそうしたところからはみ出たり、苦難をなめ始める時、本当の慰め主である主イエス・キリストの愛を知ることができるのである。

#### (4) わたしはさばきのためにこの世に来た

主は、この人が信仰告白をし、主を礼拝すると、こう言われた。

「わたしはさばきのためにこの世に来ました。目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです」

ここで主は、「わたしはさばきのためにこの世に来ました」と言われましたが、前に「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである」(ヨハネ3:17)と記されているのは、どのように調和するのか。

それは、主イエスがこの世に来られた目的は裁くためではなく、私たちに救うためなのであるが、主がこの世に来られた結果として、人々の間にふるい分けが行われるようになった。それをここでは「さばき」と言っている。

#### (5) 目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となる

「目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となる」とは、どういうことか。これは肉眼について言っていることではなく、霊的目について言っている。霊的に盲目であった人の目が開かれて、霊的事柄が見えるようになるということであり、またこの世で何でも見えているように振る舞っている人々が、実は霊的事柄については何も見えない盲人なのだということをはっきり暴露するということである。

そこで、これを聞いていたパリサイ人たちが、「私たちも盲目なのですか」と尋ねた。これは単なる質問ではなく、自分たちをどちらの部類に属していると判断しているのかという主イエスへの詰問なのである。

しかもこの詰問は、そうではないということを予想した質問である。ところが、主は彼らよりもさらに上手であられ、次のように答えられた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、今、『私たちは見える』と言っているのですから、あなたがたの罪は残ります」

主のお答えは次のように意識することができる。「もしあなたがたが、自分は盲目であり罪深いから救い主が必要だ、と認めるなら、あなたがたの罪は赦され、あなたがたは救われる。しかし、あなたがたは、不足するものは何もない、と自称し、自分は正しく、罪がないと主張している。だから、あなたがたの罪が赦されることがないのだ」